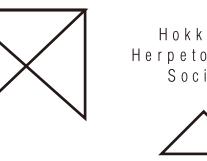
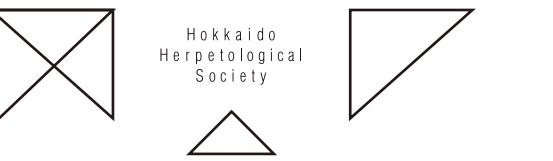
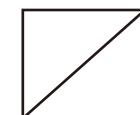


AIDO

12

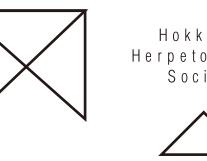
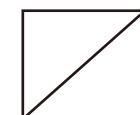
aido  
logical  
ociety



THON  
AIDO

12

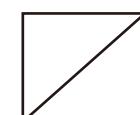
aido  
logical  
ociety



THON  
AIDO

12

aido  
logical  
ociety



THON

HERPTHON

HERPTHON

HERPTHON

HERP

HOKKAIDO 2012

HOKKAIDO 2012

HOKKAIDO 2012

HOKK 20

THON  
AIDO

HERPTHON  
HOKKAIDO

HERPTHON  
HOKKAIDO

HERPTHON  
HOKKAIDO

HERP  
HOKK

THON  
AIDO

HERPTHON  
HOKKAIDO

HERPTHON  
HOKKAIDO

HERPTHON  
HOKKAIDO

HERP  
HOKK

Hokkaido  
Herpetological  
Society

Hokkaido  
Herpetological  
Society

Hokkaido  
Herpetological  
Society

Hokk  
Herpeto  
Soci

Hokkaido  
Herpetological  
Society

Hokkaido  
Herpetological  
Society

Hokkaido  
Herpetological  
Society

Hokk  
Herpeto  
Soci

Hokkaido  
Herpetological  
Society

Hokkaido  
Herpetological  
Society

Hokkaido  
Herpetological  
Society

Hokk  
Herpeto  
Soci

Hokkaido  
Herpetological  
Society

Hokkaido  
Herpetological  
Society

Hokkaido  
Herpetological  
Society

Hokk  
Herpeto  
Soci

HERPTHON  
HOKKAIDO

HERPTHON  
HOKKAIDO

HERPTHON  
HOKKAIDO

HERP  
HOKK

Hokkaido  
Herpetological  
Society

Hokkaido  
Herpetological  
Society

Hokkaido  
Herpetological  
Society

Hokk  
Herpeto  
Soci

Hokkaido  
Herpetological  
Society

Hokkaido  
Herpetological  
Society

Hokkaido  
Herpetological  
Society

Hokk  
Herpeto  
Soci



HERPTHON HOKKAIDO  
ハープソン Hokkaido 2012

結果報告書



北海道爬虫両棲類研究会

## HERPTHON HOKKAIDO

ハープソン Hokkaido 2012

## 結果報告書

はじめに、調査結果概要、参加チーム	1
種類別調査結果および考察等	2 ~ 11
見かた ニホントカゲ	2
ニホンカナヘビ コモチカナヘビ	3
ジムグリ アオダイショウ	4
シマヘビ シロマダラ	5
ニホンマムシ クサガメ	6
ミシシッピアカミミガメ キタサンショウウオ	7
エゾサンショウウオ ニホンアマガエル	8
エゾアカガエル アズマヒキガエル	9
ウシガエル ツチガエル	10
トウキョウダルマガエル トノサマガエル	11
賞授関係	12 ~ 13
調査結果・元データ一覧、参加者感想	14 ~ 17
ハープソン Hokkaido 地図マップ	18 ~ 19
終わりに	20

## [表紙ロゴシンボルについて]

このロゴは、ハープソン Hokkaido のシンボルとして作成されました。生き物を探すスコープの照準と北海道の大地のデザインです。本年の表紙ではスコープにはニホンアマガエルが捉えられています。

LOGO DESIGN : YOSHINORI OKADA

► HERPTHON  
HOKKAIDO  
2012

## はじめに

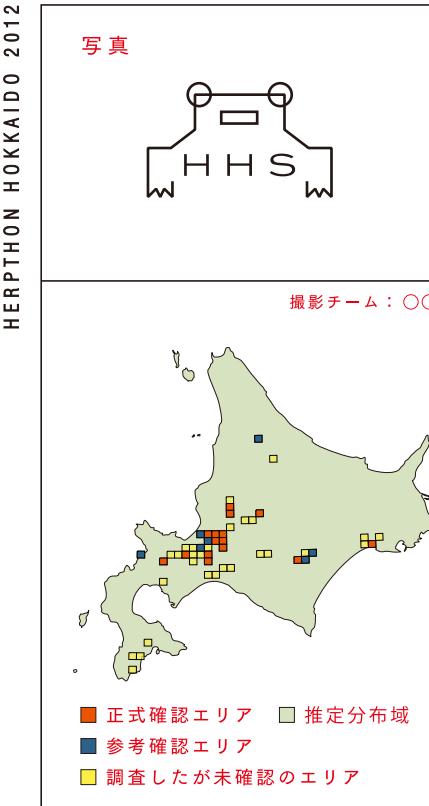
2012年7月22日～29日にかけて、北海道爬虫両棲類研究会主催の「ハープソンHokkaido 2012」が開催され、事故なく無事に終了したことを嬉しく思います。また、多くの方々が道内様々な地域から確認報告をご提供下さったことに感謝いたします。ハープソンは参加者各自の目で両生類や爬虫類を観察し、北海道の両生類・爬虫類の生息マップを作るという趣旨で行われました。活動初年度なのでマップの情報量はまだ少ないですが、今後も継続することで「両生類・爬虫類の北海道における啓発」「道内の夏季の分布の解明(未確認部分を減らす)」「道内の両生類・爬虫類が生息する環境を理解し、その環境を保つことに繋げる」などの情報を道民の皆さんと共有し、生物調査等に役立つ資料としていきたいと考えます。また、皆で楽しんで調査するということを目的に競争要素も少し取り入れ、調査で優秀な成績を修めた方には表彰を行うなど、調査のモチベーションを上げることも試行してみました。ハープソンの実行及び、当報告書の作成は(財)北海道新聞野生生物基金の助成を受けて実現させて頂きました。活動へのご理解とご助成を、大変感謝いたします。

## 調査結果概要

2012年7月22日～29日を一斉調査期間とした「ハープソン Hokkaido 2012」には、27チーム93名の参加があり、各自が選んだ47エリア(期間外情報を頂いたエリアが他に3)で調査が行われました。結果、道内に生息する19種の両生類・爬虫類のうち15種が確認され、生息データも写真が添付された正式記録が125データ、写真がない参考記録が37データ、ご厚意で寄せられた期間外の3データが蓄積されました。今回は誤同定を防ぐため、デジカメ等による写真の添付を原則とし、寄せられたデータは全て事務局で同定確認を行いました。今回の参加者は比較的普段から両生類や爬虫類にふれあいを持つ方々でしたが、それでも誤同定や、不明による同定依頼が数例ありました。もし写真添付を行わなかったとしたら、頂いた正式記録全125データのうち1割弱が誤った結果として残った可能性があり、また今後もっと一般の方々が参加するようになると、誤同定は増加する可能性が高いと考えます。参加者からは写真の撮影にハードルの高さを感じたという意見も頂きましたが、確実な結果を蓄積するために、今後も写真添付の原則は継続したいと考えております。各チームの結果個表はP.14～16に掲載します。個人情報の保護のため、参加者についてはチーム名と所属人数のみの公表とさせていただきます。

## 参加チーム(構成人数)：表示順は結果報告の到着順

ばいかだ(1)・たきかわ環境フォーラム(3)・ハマダラ(2)・減圧症(1)・びつこ(3)・  
チームやまはな(2)・まろん(1)・自然ウォッキングセンター(2)・チーム寺島(1)・  
チーム沼人(ぬまんちゅ)(1)・チーム8823(1)・東海大札幌(4)・  
チームポリプテルス(1)・カエルヤ姉チーム(1)・jintarou(1)・はなちゃん(2)・  
とかちへいや生物部(3)・わんぱく遊び隊！(46)・枝豆クラブ(1)・  
日本野鳥の会滝川支部(2)・みくく＆なつ(1)・環境調査Aチーム(1)・チーム浅野(2)・  
ざりがに探偵団(1)・CHIKUDAI NRA(5)・チームPEG(1)・さっぽろ自然調査館(3)

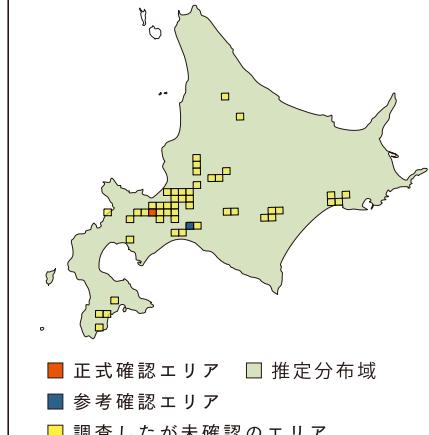


## ニホントカゲ

*Plestiodon japonicus*

正式記録：1チームが1エリアから報告  
正式+参考記録：2チームが2エリアから報告

全道的に生息するニホントカゲだが、結果の報告数はとても少なかった。原因として考えられるのは、ニホントカゲの好む環境（林縁の日当たりの良い岩場など）での調査が少なかった可能性がある。参加者の報告では全体的に両生類の報告が多い。両生類の生息するじめじめとした日陰の水場周辺の環境にはニホントカゲがあまり生息しないこと、またニホントカゲは夏季には体温が上がりやすく、日光浴は朝の早い時間に済ませて隠れてしまうことがあるので、参加者の目に止まりにくかった事も考えられる。今後の調査ではニホントカゲの好む環境、天候や時間を考慮して調査を行うようにすれば確認エリア数はかなり増えると思われる。今後のハープソンでは注目調査種を決めて、その種の生息エリアをとことん追求するようなサブテーマを持って臨むのも良いかも知れません。なお2012年後半より、ニホントカゲは分類により、東日本の個体群がヒガシニホントカゲ *Plestiodon finitimus* となり、道内のニホントカゲもヒガシニホントカゲと分類される扱いとなった。

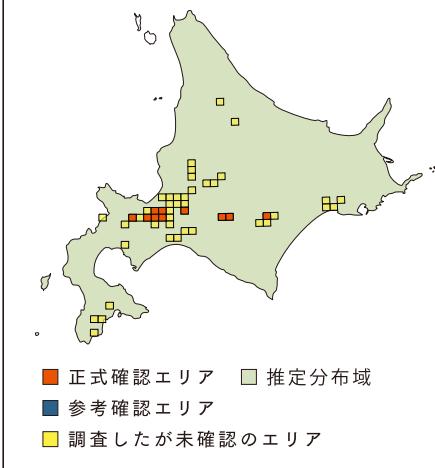


## ニホンカナヘビ

*Takydromus tachydromoides*

正式記録：7チームが10エリアから報告  
正式+参考記録：7チームが10エリアから報告

ニホンカナヘビはほぼ全道に生息するが、道北北部等の一部地域では生息が確認されていない。ハープソンでは参加チームの約1/4が確認した。エリアも広範囲で確認され、山地や住宅地での確認など環境は多様である。人が近くにいてあまり逃げない性質もあり、生息地では比較的の確認しやすいと思われるが、撮影は素早いので困難だという参加者からの声もあった。今後は確認されていない道北北部や根室半島先端部等の調査にも期待したい。北海道に生息する爬虫類の中では最も観察しやすい種と思われるので、テーマ調査として行う際などにはモデルに適した種だと思われる。また、天売島や焼尻島の個体群は国のレッドデータにも入っているため、離島環境でハープソンを行う参加者が現れることにも期待したい。結果の中には卵での確認も1例みられた。トカゲ類の産卵は花壇の石の下のような環境でも行われるため、偶発的に見つかることもある。また寒冷地では個体数が少ない傾向があるので、道東の十勝川温泉で確認されたのは大きな成果と思われる。

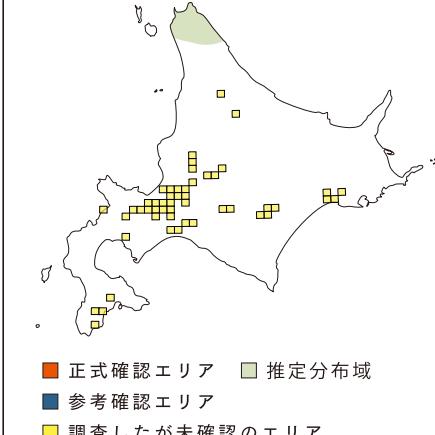


## コモチカナヘビ

*Zootoca vivipara*

正式記録：0チームが0エリアから報告  
正式+参考記録：0チームが0エリアから報告

サロベツ原野や猿払原野など、道北北部の開けた湿原草地に生息するコモチカナヘビ。残念ながらハープソンでは報告はなかった。今回の参加者の中で最も北で行われた調査エリアが名寄であったため、コモチカナヘビが生息するエリアまで調査が及ばなかったものと思われる。今後、道北北部でも調査が行われることに期待したい。北海道では本種の生息する環境は湿地で、木道などがあると日光浴をしに出てくるため、確認できることが多い。しかし木道のない環境や湿地以外での環境では探しにくく、確認するのは難しい。限局的なエリアの生息なのか、まだ知らない生息環境があるのか、それを知るにはたくさんの人達の「目」が重要ではないだろうか。また、ニホンカナヘビの生息地とコモチカナヘビの生息地に重なるところはあるのか、など調査の目的が多く面白い対象と思われます。成体ではニホンカナヘビとコモチカナヘビの見た目はだいぶ違うが、幼体は体色も斑紋も似ることがある。ただし、体型はコモチカナヘビの方がずんぐりしていて尾も太短い。



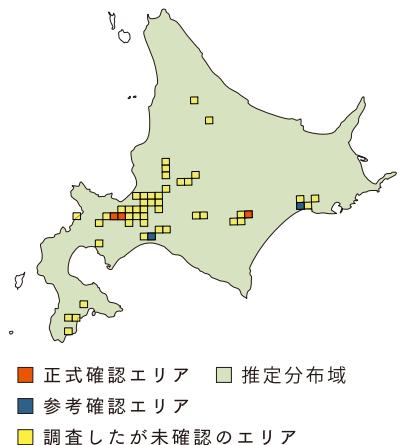


## ジムグリ

*Euprepiophis conspicillatus*

正式記録：2チームが3エリアから報告

正式+参考記録：4チームが5エリアから報告



ジムグリは全道的に生息するが、比較的高温を嫌うことと、市街地付近では見かけにくい種である。今回のハープソンの期間は7月の後半という最も暑くなる期間に設定したため、報告は殆ど無いかもしれないと危惧した。しかし、帯広と札幌の山地から確認の報告を受けデータを残すことができた。正式に確認されたのは3エリアから4例で、そのうち3例は車両による轢死体であった。ジムグリの活動時間は暑い時期は夜間に移行する傾向にあり目につきにくい現状があるが、路上で轢死したために日中まで死体が残り、確認ができるという皮肉な面もある。5~6月初旬頃には日中に活動する姿も見られるため、ジムグリの生息エリアをより効率良く調べるのであれば、調査期間の前倒しを考えたほうが良いだろう。確認4例のうち、定山渓エリアと十勝川温泉エリアで確認された2例は背面に全く斑紋のない、いわゆるアカジムグリと呼ばれるタイプだった。本州では高地等の環境で確認の多い変異体だが、道内では低標高の地域でも散見される傾向にある。

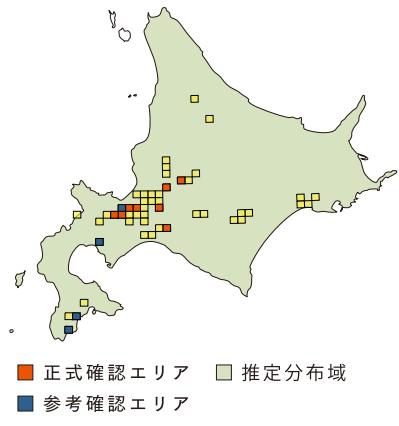


## アオダイショウ

*Elaphe climacophora*

正式記録：7チームが8エリアから報告

正式+参考記録：9チームが12エリアから報告  
(1チーム1エリアは期間外)



アオダイショウは全道に生息しており、環境も民家周辺から森林内まで非常に多様に分布するため、おそらく道内で最も目に見える機会の多いヘビだろう。ハープソンでは8エリアから10個体が確認され、そのうち5匹は車両による轢死体だった。地域は市街地から山林まで確認されており、データ数が決して多くない今回の調査でも、幅広い地域と環境での生息が窺える。今回の期間である7月後半は暑く、ジムグリより暑さに強いアオダイショウでも昼ごろに外に出ているのを見ることは少ない。少し早い6月に実施すれば、もう少し多くの個体が確認される可能性もある。また9月中旬には、孵化して間もない当年幼蛇が多数見られるため、アオダイショウのみの生息調査を行うのであれば、9月も良い選択と思われる（ただし9月は成蛇を見かける機会は少ない）。北海道のヘビの中では地域、環境ともに生息の偏りが小さいので今後の調査でもコンスタントな確認ができると思われ、他種よりも早く様々なデータ解析などを行なっていけるのではないかと期待している。

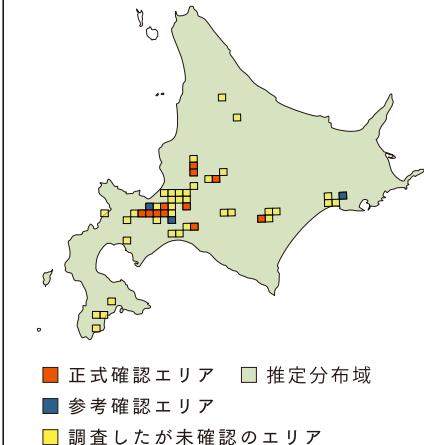


## シマヘビ

*Elaphe quadrivirgata*

正式記録：10チームが11エリアから報告

正式+参考記録：12チームが14エリアから報告  
(1チーム1エリアは期間外)



シマヘビは全道的に見られる種だが、カエルを好んで捕食するなどの生態から、淡水の水辺の環境でよく見られる。今回のハープソンでは爬虫類では最多の11エリアから確認された。参加者の結果でも、餌となりやすいエゾアカガエルが多数報告されたこともあり、調査区域が水辺付近が多かったことも記録の増加につながったと思われる。シマヘビは比較的気温の上昇や日光の強射状況でも、アオダイショウやジムグリより目に付く場所に出ていていることが多く、みつかりやすい。しかし動きがとても素早く、捕獲や撮影できないことが度々ある。田んぼのような開けた環境なら正式記録（写真撮影が必要）は記録しやすいと思われる。ヘビ全般に言えることだが、出現は天候によって大きく左右される。強風、降雨や低温はヘビの出現に対してマイナスの要因となる。今回のハープソン期間は好天が多かったためヘビ類の確認も少なくなかったが、データを毎年、一定数を記録するなら天候事情も踏まえて期間を長期に設定するなどの工夫が必要になるだろう。

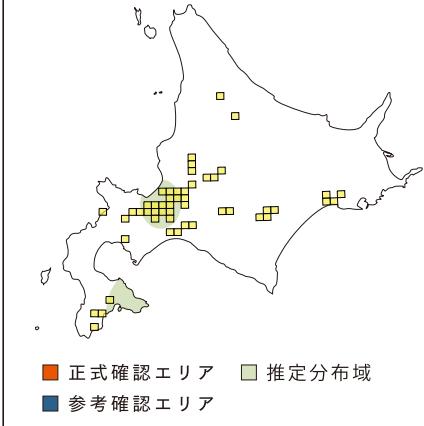


## シロマダラ

*Dinodon orientale*

正式記録：0チームが0エリアから報告

正式+参考記録：0チームが0エリアから報告



シロマダラの生息確認は道内では例数が少なく、発見されている地域も限局的で道央と道南の一部からしか報告されていない。今回のハープソンでは残念ながら1例の報告も得られなかった。生態的にあまり活発に動き回らず、狭い隙間に潜むのを好むことや、行動する時間も夜間であることなどから目につきにくいヘビである。また北海道はシロマダラの属するマダラヘビ属の北限近い地域であり、道内でもシロマダラの生息北限は現在確認されている場所では石狩市厚田区までである。シロマダラの生息には餌動物の生息が必須である。シロマダラは爬虫類食の偏食蛇で、ニホントカゲやニホンカナヘビを主に食べているものと思われ、それらの生息密度の低い地域での生息は難しいものと思われる。本州以南ではタカチホヘビを食べることも知られているが、道内にタカチホヘビは生息しない。また他のヘビ類もシロマダラより大型になるため、恒常的に蛇食を行うのは難しいと思われる。今後もシロマダラの北限、東限の記録は注目されていくだろう。



## ニホンマムシ

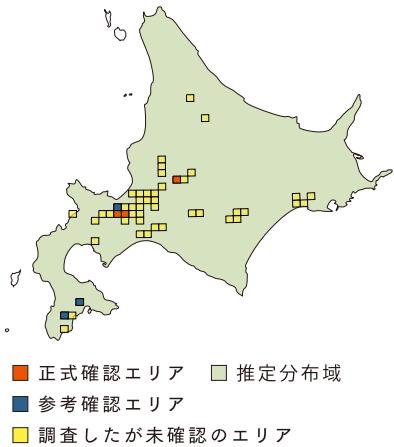
*Gloydius blomhoffii*

正式記録：2チームが3エリアから報告

正式+参考記録：3チームが6エリアから報告

ニホンマムシは道北北部や釧路湿原など生息が確認されていない地域はあるが、分布は道内広くに見られる。意外にニホンマムシが北海道に生息していることの認知度は低いが、山地付近では身近にも生息している。今回のハープソンでも3エリアから確認され、いずれも内陸山地で見つかった。実際は海岸付近の山地や岩場にも見られるため、今回の結果のみでは傾向の考察は難しい。生体で確認された奥芦別の記録は日中に日光浴する姿が観察されており、死体で見つかった2例のうち1例は妊娠状態が確認されている。ニホンマムシは卵胎生のため、ハープソンの行われた7月後半は胎仔を育てるために日光浴に出てくる。その姿を目撃されたものと思われる。3例とも山地内の日当たりの良い場所での確認だった。死亡していた2例のうち1例は蟻死であったが、もう1例は撲殺が疑われた。おそらく駆除目的の人によるものと思われたが、マムシ咬傷は駆除時に多く起こっているので、どうしても駆除する必要があるときでなければ触らないほうが無難だろう。

撮影チーム：チームやまはな



## クサガメ

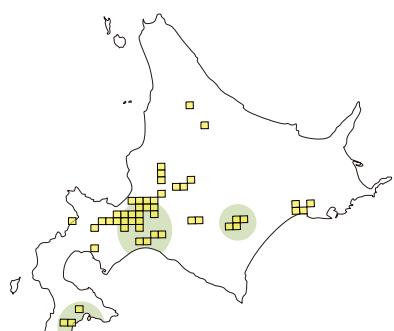
*Chinemys reevesii*

正式記録：0チームが0エリアから報告

正式+参考記録：0チームが0エリアから報告

クサガメは道内の個体は移入されたものである。ハープソンのように多くの人が居住区域付近を調査することは、移入種、特に公園等に放逐される動物の分布の現状を把握するにはとても有効だろう。道内の分布記録は多くないが道央や道南を中心に確認され、帯広市等でも確認されている。今回のハープソンではクサガメの記録は把握できなかった。札幌東部エリアの公園でクサガメと思しき報告があったが、写真もなく、調査者もクサガメと断定できなかつたので参考記録にも記録できなかつた。クサガメのように分布の記録が不連続で少ない種の場合、種自体が分布地を侵攻的に自力拡大できるのか疑問が残る。むしろ散発的ではあるが多地域で確認されるのは、人間による放逐が今現在も少なからず行われているのだと思われる。またクサガメは本州以南では在来種と思われてきたが、最近の研究により、江戸時代以降に九州に移入され分布が拡大したものとされている。こうした放逐由来の移入動物対策には飼育者のモラルの向上も必要不可欠と思われる。

写真提供：徳田龍弘



■ 正式確認エリア ■ 推定分布域  
■ 参考確認エリア  
■ 調査したが未確認のエリア



## ミシシッピアカミミガメ

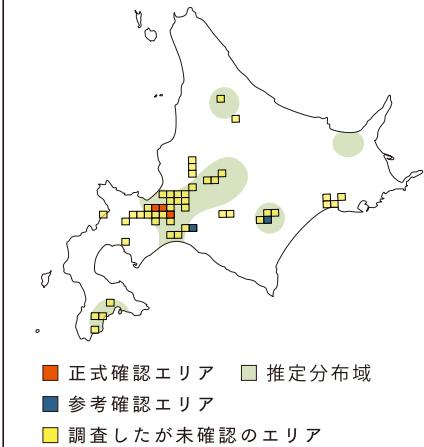
*Trachemys scripta elegans*

正式記録：3チームが3エリアから報告

正式+参考記録：5チームが5エリアから報告  
(1チーム1エリアは期間外)

ミシシッピアカミミガメは日本全国に見られる移入動物で、道内でも全道的に点々とした分布が確認される。今回のハープソンでは公園での確認2例のほかに、農家で捕獲された例もあり、限局的な環境から外部に適応しようとする様子も窺える。またカメ類は人気のある動物で飼育者も多く、その一方で遺棄される数も少なくない。流通する種も多種にわたるため、人の集う公園池には様々な種のカメが見られることがある。今回の記録でも、札幌東部エリアの公園池でミシシッピアカミミガメの別亜種、カンバーランドキミガメと思しき個体が確認されている。写真も残されているが、全体像がわからず、最終的には種不明のカメという結論になったが、ミシシッピアカミミガメやクサガメといった道内確認種以外のカメである可能性は非常に高い。各カメが道内の気候に適応し、冬越しや繁殖ができるかどうかは実証がないが、少なくともミシシッピアカミミガメは冬季にとても気温の低下する地域（北見市や帯広市など）でも越冬できることが確認されている。

撮影チーム：ハマダラ



## キタサンショウウオ

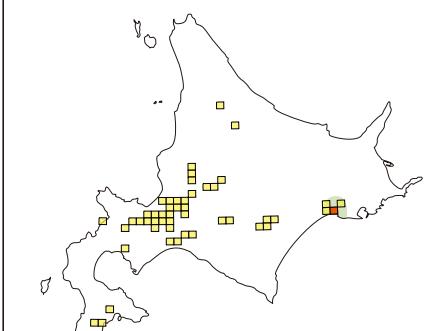
*Salamandrella keyserlingii*

正式記録：1チームが1エリアから報告

正式+参考記録：1チームが1エリアから報告

キタサンショウウオはユーラシア大陸東部、サハリン、国後島などに生息する。北海道においては釧路湿原域でのみ分布が確認されている。釧路市及び標茶町では天然記念物に種指定されている。本種の調査を実施する場合、繁殖期の5月～6月前半に湿原に立ち入りらずに成体や卵嚢を観察する以外は、事前許可を必要とする場合がほとんどである。保護のための法令や決まりごとは、率先して遵守しなければならない。ハープソンにおいて本種の生息データを集めには、前述のように確認が比較的容易な期間に実施するなどの工夫が必要である。また本種のように分布の限られた生物は、調査区画エリアを詳細にするなど検討する点があるが、一般市民ができる調査は制限があることを踏まえ、今後のハープソンのスタンスを考えるべきである。今回のハープソンでは大楽毛エリアで1例が記録された。この記録は、キタサンショウウオの調査・研究に携わる当会副会長、照井滋晴氏が調査可能な範囲で確認を行ったものである。

撮影チーム：チームPEG



■ 正式確認エリア ■ 推定分布域  
■ 参考確認エリア  
■ 調査したが未確認のエリア



## エゾサンショウウオ

*Hynobius retardatus*

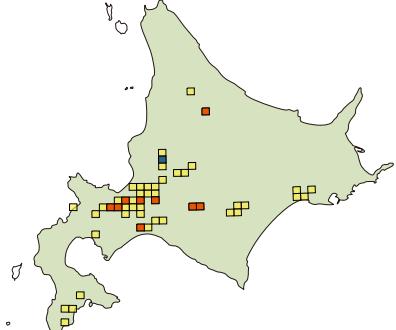


正式記録：6チームが9エリアから報告

正式+参考記録：7チームが10エリアから報告  
(1チーム1エリアは期間外、写真なし)

エゾサンショウウオは道内ほぼ全域に生息するが世界的にみると、北海道にしか生息しない種である。今回のハープソンでは9エリアと多数のエリアで見つかったが、1例を除き、みな幼生の記録だった。参加者の感想の中には「春にサンショウウオの幼生がいた場所も調べたが、全く見つけられなかった」というものもあり、ハープソンの期間（7/22～29）以前に上陸を済ませてしまったエリアもあったようだ。サンショウウオの成体は、とても隠遁性が高いので、なかなかみつからない。そのため、コンスタンストに生息エリアを調べるには幼生あるいは卵嚢を確認するのが望ましい。今回の開催は時期が遅めだったので、確認できたはずの地域で確認できない状況が少なからずあったと思われる。サンショウウオやエゾアカガエルのように早春産卵するものを重要種と捉えて調査するなら、上陸が始まる前の6月下旬までには調査を行うことが望ましい。今回の結果は道央が中心的だが、参加者が各地で増えれば、記録エリアはもっともっと増えるものと思われる。

撮影チーム：環境調査Aチーム



■ 正式確認エリア ■ 推定分布域  
■ 参考確認エリア  
■ 調査したが未確認のエリア



## ニホンアマガエル

*Hyla japonica*

正式記録：12チームが15エリアから報告

正式+参考記録：15チームが22エリアから報告

ニホンアマガエルは全道的に生息する。今回のハープソンでも多くの報告が得られ、成果の大きかった種と言えるだろう。ニホンアマガエルは開放水面のある止水を好むことから、人工池や田んぼなどでも多く見られるので、観察調査をしやすい。しかし少数生息地では鳴き声は聞こえるが姿を見つけられないジレンマに陥ることがある。また山間部の環境でも生息するが、地形によっては確認が難しい場合もある。幼生（おたまじやくし）は他種より特徴があり、上から見ると目がとても離れている。この点に留意して調査できればカエルの鳴き声の少ない昼夜でも容易に種の確認をすることができる。ニホンアマガエルは道内に生息するカエルの中で唯一指先に吸盤を持っているため、草の葉の上や小さな木に登っている姿も見ることができる。変態して上陸する時期には大量のアマガエルが水辺のフキの葉の上に乗っているところを目にする。本種については今後のハープソンでも継続的に多くのデータが入りそうなので、分布マップの作成も早く進んで行くと思われる。



## エゾアカガエル

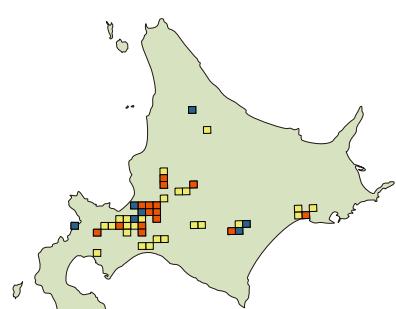
*Rana pirica*

正式記録：9チームが15エリアから報告

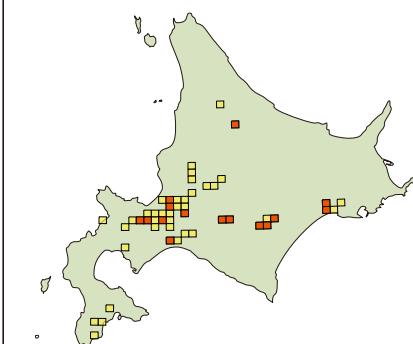
正式+参考記録：10チームが15エリアから報告

エゾアカガエルも道内に広く分布する種であるが、エゾサンショウウオ同様、産卵をする早春以外は集団にならず、産卵期以外に成体を確認するのは少し難しい。しかしサンショウウオほど隠れないで、林道や水辺で偶発的に出会うこともある。今回のハープソンでは多くが成体の確認であった。春に幼生はいたが、期間中には見られなかったという報告は複数あった。今回のハープソンの期間（7/22～29）は平野部では幼生を探すのは厳しかったかもしれない。帯広南部、占冠、定山渓など幼生が確認された地域で共通することは他地域より冷涼な気候であることが考えられる。冷涼、寒冷であれば産卵が遅い、幼生の成長が緩慢など、上陸が遅くなる要因が思い浮かぶ。エゾアカガエルは繁殖期以外はほとんど鳴かず、その時期も早春で終了するので、アマガエルのように「声はすれど姿は見えず」という事態が起こりにくいためか、参考記録は少なく、正式記録との差が大きく開いた。ジャンプ力に優れるため、逃げられて写真を撮れなかったという意見もあった。

撮影チーム：自然ウォッチングセンター



■ 正式確認エリア ■ 推定分布域  
■ 参考確認エリア  
■ 調査したが未確認のエリア



■ 正式確認エリア ■ 推定分布域  
■ 参考確認エリア  
■ 調査したが未確認のエリア



## アズマヒキガエル

*Bufo japonicus formosus*

正式記録：1チームが2エリアから報告

正式+参考記録：2チームが3エリアから報告  
(1チーム1エリアは期間外)

アズマヒキガエルはニホンヒキガエルの東日本産亜種だが、北海道では移入された個体群である。近年、各地で確認されるようになり、函館、旭川、室蘭では繁殖が確認され、また石狩川下流域での繁殖に関する目撃も増えている。今回のハープソンでも石狩川下流域の2エリアで幼体～成体が確認された。また、期間外の情報提供で滝川エリアでの個体も確認されている。2012年には深川市内での繁殖について北海道新聞で報道されており、ハープソンの結果も含めて旭川市から石狩市の石狩川流域でのアズマヒキガエルの生息は断続的だと思われる。ヒキガエル類は毒性からあまり捕食されず、また本州以南のようにヒキガエルを好んで食べるヤマカガシも生息しないので、外敵による個体数減少の機会は少ない。また、旭川や深川でも繁殖ができるため、寒冷に対してもかなり耐性があると思われる。大型になり、その体を維持するための捕食量も相当量になるため、地表に生息する昆虫等への影響は少くないと思われる。今後も生息動向に注意すべき種の1つだろう。



## ウシガエル

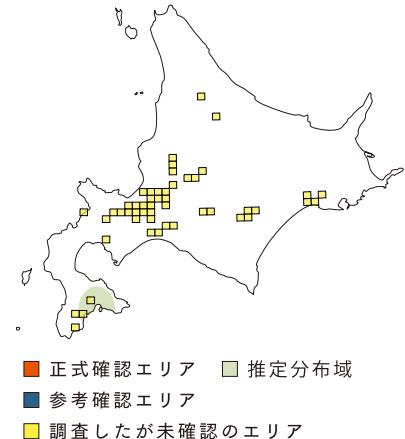
*Rana catesbeiana*

正式記録：0チームが0エリアから報告

正式+参考記録：0チームが0エリアから報告

ウシガエルは日本に移入されたカエルで、北海道も道南のごく一部で生息・繁殖している。今回のハープソンで確認は一例もなかったが、生息している湖沼の付近に行けば、ウシのような大声で鳴くので、存在は確認しやすいだろう。現在のところ北海道で繁殖するのは比較的大きな湖沼に限られているようだ。ウシガエルも人間の関与により、成体や幼生が運ばれて各地の湖沼に入る可能性はある。しかし現在は外来生物法により、ウシガエルの生体の飼育や移動が禁じられているため、他の移入種よりは人為拡散のリスクはやや低い。ウシガエルはその体の大きさから食欲も旺盛であり、生息地では周囲に生息する小動物に及ぼす影響は大きい。そのため、ハープソンを通して今後も生息域の監視を続けていく事が出来れば、大きな意味があるだろう。また、未だ知られていない移入された地域などを探すことは、限られた人数の調査では難しいため、ハープソンのように多人数で情報を共有する調査が継続できれば、生息拡大の監視などにも役立つと思われる。

写真提供：徳田龍弘



## ツチガエル

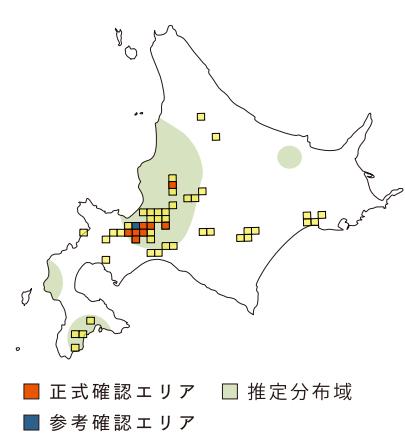
*Rana rugosa*

正式記録：8チームが8エリアから報告

正式+参考記録：9チームが9エリアから報告  
(1チーム1エリアは期間外)

ツチガエルは養殖魚の移送に紛れて道内に移入されたものと思われ、分布地は不連続的に散在する。今回のハープソンでは8エリアから記録されているが、そのうち定山渓、空沼岳、栗山エリアでは初記録と思われる。過去の資料との比較なので、分布を拡大しているのか、ただ確認できていなかったのかを判断するのは難しい。今後もデータを取り続けて監視する必要がある。ツチガエルは幼生、成体とともに水中で越冬するので、深い沼や釣り堀池、流れのゆるやかな河川沿いに分布する傾向にある。これらの環境は冬季にも水底まで凍ることないので越冬できるものと思われる。養殖魚が道外から移送された経緯のある湖沼にはツチガエルが生息する可能性があるので、今後のハープソンに参加される方々には、これらの環境に注意して調べると、今まで確認されていなかった地域でも見つかるかもしれない。移入動物はどんな生物でも在来の環境に少なからず影響を与える。これらの影響が大きいか、小さいかなどを調べるためにも、分布調査は重要になると思われる。

撮影チーム：チーム ポリプテルス



## トウキョウダルマガエル

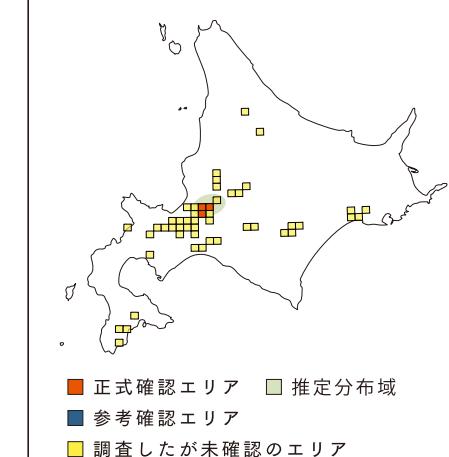
*Rana porsa porsa*

正式記録：1チームが3エリアから報告

正式+参考記録：1チームが3エリアから報告

トウキョウダルマガエルはトノサマガエルとよく似ていて、識別が難しい。両種共に北海道では移入種である。過去の資料からは岩見沢市的一部分で生息があるとされ、少しづつ西南方向へ分布を拡大している。今回のハープソンでも岩見沢市周辺の3エリアから生息が確認された。生息地は主に田園であり、相当数が生息している。冬は用水路や田んぼの周辺環境等を利用して越冬するものと思われる。情報の扱いが難しいのは、誤認されてトノサマガエルと混同されるがちなところである。また、トウキョウダルマガエルとトノサマガエルの混在が起こっていても、見ただけで両種を見分けることが難しい。駆除や影響を考える上では両種の種判別の意義は低いかもしれないが、分布調査としては種判別が難しいのが悩ましいところである。両種の分布の拡大により近年中に江別エリアで混在する恐れもある。今後、この2種を扱う場合には、複数個体及び、様々な方向からの写真の記録が望ましいところだ。混在地での調査結果の検討は慎重に行わなくてはならないだろう。

撮影チーム：ばいかだ



## トノサマガエル

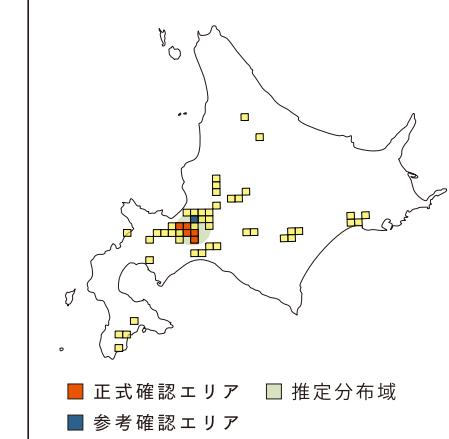
*Rana nigromaculata*

正式記録：7チームが5エリアから報告

正式+参考記録：7チームが6エリアから報告

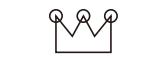
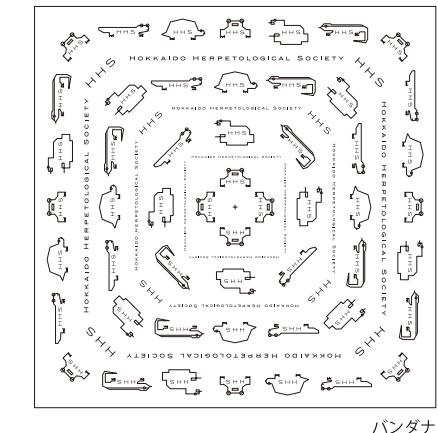
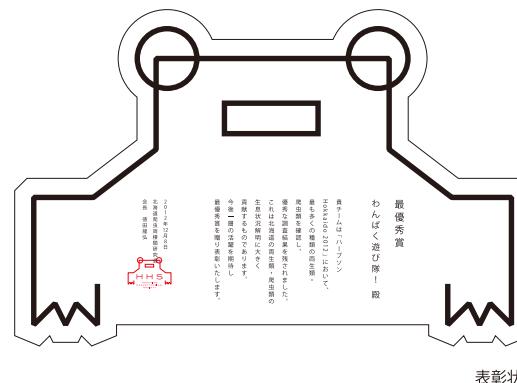
トノサマガエルは北海道の移入種の一つで、道央で生息地を徐々に広げている。今回のハープソンでも5エリアから報告され、市町村としては札幌市、北広島市、恵庭市で見られている。札幌エリアで確認された写真個体はトノサマガエルと判別したが、同所的にトウキョウダルマガエルも生息するのではないかと、参加者からの示唆があった。また参考記録だが、江別エリアで声の確認があり、今後の生息地のさらなる拡大が懸念される。トノサマガエルは、田んぼや湿地を好んで生息地とし、河川沿いに生息を広げている様子がある。江別エリアには石狩川があり、流域に侵入すると生息拡大の勢いが上がる事が心配される。トノサマガエルはトウキョウダルマガエルと共に、在来のニホンアマガエルと生息地の競合が起こりうる。本州では共存が成立しているが、今までトノサマガエルのいなかつ北海道への侵入は、少なからず影響が考えられる。また、エゾアカガエルを上回る大きさの中型カエルなので、昆虫をはじめとする被食動物への影響も大きいだろう。

撮影チーム：ばいかだ



## 賞授関係

ハープソン北海道では、一生懸命調査して下さった方々に3つの賞を授与する事にしました。これには調査を行うモチベーションを上げる狙いもありました。受賞はとても難しい条件だったと思いますが、頑張って残した結果を楽しんでいただければ幸いです。受賞者には表彰状と、研究会より粗品として特製のバンダナを贈ります。バンダナは今後も良いフィールド調査のお供となってくれると思います。



## 最優秀賞

### 確認 7 種

## わんぱく遊び隊！

ハープソン期間中に最も多くの種を確認して下さったチームに送りました。今後のハープソンでもこの記録を上回るチームが現れるのを期待していくたいと思います。限られた期間で他種の両生類、爬虫類の確認をするのは実は、とても難しいことなんですね。

2位：まろん、東海大札幌（6種）

3位：自然ウォッキングセンター、チームやまはな（5種）

※主催チーム「ばいかだ」は賞授には参加しておりません



## Booby 3賞

### 確認 2 種

## チーム 8823

## みっく＆なっつ

## チーム 浅野

頑張ると受賞できる賞の他に、最下位から3番の方々3チームにBooby 3賞を授与しました。こちらは、なかなか狙つたり頑張っても撮れない賞です。棚からぼたもちですね。調査種を少数しか報告できない方々でも、張り合いをもつて参加してもらいたいという目的から生まれた賞です。実は2種確認の記録は5チームもあったのですが、当初より規定で3チームを対象としていたので、公平に抽選を行い、3チームを決定しました。

次点：カエルヤ姉チーム、環境調査Aチーム（2種）

抽選時の動画 <http://youtu.be/En1tMtt5YIA>



調査の正式確認データとして、写真を必須にすることになりましたが、せっかく写真を頂くなら、ということで写真賞を授与することにしました。写真賞として応募のあった10点から、野生動物写真家の中島宏章氏（中島宏章賞）と研究会会長の徳田龍弘（ばいかだ賞）が選定されました。これらの写真は2012年12月8日、9日に開催された第1回北海道爬虫両棲類研究大会（ハープソン報告会を兼ねる）にて展示を行い、中島氏からもコメントを頂きました。



中島宏章賞

## ハマダラ

（作品名：幸せですか？）



ばいかだ賞

## チーム 8823

（作品名：風流「古池や…」）



わんぱく遊び隊！  
（作品名：ね～このへび何？）



チームやまはな  
（作品名：くりからもんもん）



たきかわ環境フォーラム  
（作品名：夏の日しまへび）



カエルヤ姉チーム  
（作品名：ツッчиいた！）



応募作品

ご応募ありがとうございました。



CHIKUDAI NRA  
（作品名：ひなたぼっこ）



とかちへいや生物部  
（作品名：トガリフタモンアシナガバチ）



日本野鳥の会滝川支部  
（作品名：舌が出てたら良かったのに）



ばいかだ  
（作品名：ごめんね）

チーム名	調査日	地区名	確定種（参考記録は報告種名）	記録	備考
1 ばいかだ	7/22	占冠中央	エゾアカガエル	正式 幼生。他に幼体、成体確認	
2 ばいかだ	7/22	占冠中央	エゾサンショウウオ	正式 幼生	
3 ばいかだ	7/22	占冠中央	ニホンカナヘビ	正式 成体	
4 ばいかだ	7/22	双珠別湖	エゾアカガエル	正式 幼生	
5 ばいかだ	7/22	双珠別湖	エゾサンショウウオ	正式 幼生	
6 ばいかだ	7/22	双珠別湖	ニホンカナヘビ	正式 成体	
7 ばいかだ	7/22	石狩広島	トノサマガエル	正式 成体	
8 ばいかだ	7/22	石狩広島	ニホンアマガエル	正式 幼生。他に幼体確認	
9 ばいかだ	7/22	定山渓	アオダイショウ	正式 幼体・死体。他に成体・死体を確認	
10 ばいかだ	7/23	定山渓	エゾアカガエル	正式 幼生	
11 ばいかだ	7/23	定山渓	エゾサンショウウオ	正式 幼生	
12 ばいかだ	7/23	定山渓	ニホンアマガエル	正式 幼生。他に鳴き声を確認	
13 ばいかだ	7/23	定山渓	ツチガエル	正式 幼体。他に鳴き声、幼生、卵を確認	
14 ばいかだ	7/23	定山渓	ニホントカゲ	正式 成体。他に幼体を確認	
15 ばいかだ	7/23	定山渓	アオダイショウ	正式 幼体。他に成体を確認	
16 ばいかだ	7/23	定山渓	シマヘビ	正式 成体。脱皮が近い様子	
17 ばいかだ	7/23	定山渓	ジムグリ	正式 幼体・死体。いわゆるアカジムグリタイプ	
18 ばいかだ	7/25	無意根山	ジムグリ	正式 成体	
19 ばいかだ	7/25	無意根山	エゾアカガエル	正式 幼生	
20 ばいかだ	7/25	無意根山	エゾサンショウウオ	正式 幼生	
21 ばいかだ	7/25	無意根山	シマヘビ	正式 成体・死体。縦線のないタイプ	
22 ばいかだ	7/25	無意根山	アオダイショウ	正式 成体・死体	
23 ばいかだ	7/26	石山	ニホンマムシ	正式 成体・死体	
24 ばいかだ	7/26	石山	ツチガエル	正式 幼体。他に成体、鳴き声、幼生を目視	
25 ばいかだ	7/26	石山	シマヘビ	正式 成体。排水管に潜んでいた	
26 ばいかだ	7/26	空沼岳	ツチガエル	正式 幼生。他に鳴き声、成体を目視	
27 ばいかだ	7/27	定山渓	ニホンカナヘビ	正式 成体	
28 ばいかだ	7/27	定山渓	ニホンマムシ	正式 成体。殺害されていた、妊娠	
29 ばいかだ	7/27	清田	-	参考 何も見つけられず	
30 ばいかだ	7/27	札幌東部	ミシシッピアカミミガメ	正式 カメ成体	
31 ばいかだ	7/27	札幌東部	-	参考 カメ成体。撮影したが確定できず。カンバーランドキミミガメに似る	
32 ばいかだ	7/27	札幌東部	-	参考 成体。同定不可だった・クサガメのように見える	
33 ばいかだ	7/28	上幌向	トウキョウダルマガエル	正式 成体。幼体も確認	
34 ばいかだ	7/28	上幌向	ニホンアマガエル	正式 成体	
35 ばいかだ	7/28	岩見沢	トウキョウダルマガエル	正式 成体。幼体も確認	
36 ばいかだ	7/28	岩見沢	ニホンアマガエル	正式 幼体。鳴き声、幼生も確認	
37 ばいかだ	7/28	上志文	ニホンアマガエル	正式 幼体。鳴き声、幼生も確認	
38 ばいかだ	7/28	栗沢	トウキョウダルマガエル	正式 成体	
39 ばいかだ	7/28	栗沢	ニホンアマガエル	正式 幼体	
40 ばいかだ	7/28	石狩当別	ニホンアマガエル	正式 成体。鳴き声多数	
41 ばいかだ	7/28	石狩当別	エゾアカガエル	正式 成体	
42 ばいかだ	7/28	江別	アズマヒキガエル	正式 幼体。下流方向で成体・幼体多数	
43 ばいかだ	7/28	江別	エゾアカガエル	正式 成体	
44 ばいかだ	7/28	江別	ニホンアマガエル	参考 鳴き声のみにて参考記録	
45 ばいかだ	7/28	江別	トノサマガエル	参考 鳴き声のみにて参考記録	
46 ばいかだ	7/28	太美	アズマヒキガエル	正式 成体、裸死体	
47 ばいかだ	7/28	太美	ニホンアマガエル	参考 鳴き声のみにて参考記録	
48 たきかわ環境フォーラム	10/09/14	洞爺	アオダイショウ	参考 成体。洞爺湖中島。期間外(写真あり)	
49 たきかわ環境フォーラム	11/07/08	滝川	エゾサンショウウオ	参考 東滝川の小沢で幼生複数個体を捕獲。期間外(写真なし)	
50 たきかわ環境フォーラム	11/08/22	江部乙	アズマヒキガエル	参考 成体。江部乙の水田で捕獲。期間外(写真あり)	
51 たきかわ環境フォーラム	7/23	俱知安	ニホンアマガエル	正式 尻別川左岸堤防道路。多数	
52 たきかわ環境フォーラム	7/24	滝川	ツチガエル	正式 卵塊。防火用貯水池の水中。報告はニホンアマガエル。事務局で確認訂正	
53 たきかわ環境フォーラム	7/24	滝川	ニホンアマガエル	正式 オタマジャクシ(幼生)。上記と同所。報告はツチガエル。事務局で確認訂正	
54 たきかわ環境フォーラム	7/24	滝川	ツチガエル	正式 成体。農業用水路	
55 たきかわ環境フォーラム	7/24	滝川	シマヘビ	正式 成体。鰐が目立たないが、赤い目で判断。キャンプ場併設の公園内の人工池。アマガエル多数	



チーム名	調査日	地区名	確定種（参考記録は報告種名）	記録	備考
56 たきかわ環境フォーラム	7/24	砂川	ニホンアマガエル	正式 成体	
57 ハマダラ	7/24	札幌	ミシシッピアカミミガメ	正式 成体。同時に3個体確認	
58 減圧症	7/22	定山渓	ニホンカナヘビ	正式 卵	
59 びつこ	7/28	野幌	-	参考 確認できず	
60 チーム・やまはな	7/25	奥芦別	ニホンマムシ	正式 成体。三段滝の川岸の遊歩道横・陽のあたる岩上	
61 チーム・やまはな	7/25	上富良野	ニホンアマガエル	正式 成体。沢地の笹藪、1mに3~10頭	
62 チーム・やまはな	7/25	島ノ下	シマヘビ	正式 成体・死体。道道135・芦別市泉 無残な死体	
63 チーム・やまはな	7/25	奥芦別	アオダイショウ	正式 成体・死体。道道135・芦別市芦別 烏帽子岳山麓 外傷少ない	
64 チーム・やまはな	7/28	札幌	エゾサンショウウオ	正式 幼生。藻岩山北東中腹・札幌平和塔下の小池 10匹ほど	
65 まろん	7/23	ウトナイ湖	ジムグリ	参考 生体。写真を紛失	
66 まろん	7/26	胆振高丘	エゾアカガエル	正式 成体	
67 まろん	7/26	胆振高丘	エゾサンショウウオ	正式 幼生	
68 まろん	7/27	恵庭	ニホンアマガエル	正式 幼体	
69 まろん	7/27	恵庭	トノサマガエル	正式 成体。事務局にて種確認	
70 まろん	7/27	幌内	シマヘビ	正式 成体・死体	
71 まろん	7/27	幌内	アオダイショウ	正式 幼体・死体	
72 まろん	7/27	早来	ニホントカゲ	参考 生体。写真撮れず	
73 まろん	7/28	幌内	ミシシッピアカミミガメ	参考 生体。写真撮れず	
74 自然ウォッチングセンター	7/22	雷電岬	ニホンアマガエル	参考 声のみ	
75 自然ウォッチングセンター	7/23	雷電岬	-	参考 蛍の抜け殻・(事務局:マムシ以外のヘビ、シマヘビのように見えるが確定に至らず)	
76 自然ウォッチングセンター	7/26	本倶登山	ニホンカナヘビ	正式 成体	
77 自然ウォッチングセンター	7/26	俱知安	ニホンアマガエル	正式 成体	
78 自然ウォッチングセンター	7/27	札幌東部	トノサマガエル	正式 成体	
79 自然ウォッチングセンター	7/27	札幌東部	ニホンアマガエル	参考 生体。逃げられた	
80 自然ウォッチングセンター	7/27	清田	ツチガエル	正式 成体	
81 自然ウォッチングセンター	7/27	清田	エゾアカガエル	参考 成体	
82 自然ウォッチングセンター	7/27	清田	シマヘビ	正式 成体。子供たちが撮影	
83 チーム寺島	7/22	手稲山	ニホンマムシ	参考 生体。写真なし・自宅前の草むらにある穴	
84 チーム寺島	7/22	手稲山	シマヘビ	参考 生体。写真なし・上記の穴の傍	
85 チーム寺島	7/22	手稲山	アオダイショウ	参考 写真なし・4件隣の家の前の草むら	
86 チーム寺島	7/28	千軒	アオダイショウ	参考 生体。写真なし・道路上	
87 チーム寺島	7/28	木古内	アオダイショウ	参考 生体。写真なし・道路上	
88 チーム寺島	7/28	神明	ニホンマムシ	参考 生体。写真なし・道路上	
89 チーム寺島	7/28	陣屋	ニホンマムシ	参考 生体。写真なし・道路わきの草地	
90 チーム沼人	7/22	石狩当別	ニホンアマガエル	参考 声のみ・大合唱。周囲は畑地、水田	
91 チーム沼人	7/23	石狩当別	ニホンアマガエル	参考 3匹ほど。低木の葉の上、じっとしている	
92 チーム沼人	7/24	石狩当別	ニホンアマガエル	参考 声のみ。大合唱	
93 チーム沼人	7/25	石狩当別	ニホンアマガエル	参考 2匹、街灯に来る虫を狙っていた	
94 チーム沼人	7/26	石狩当別	ニホンアマガエル	参考 3匹、街灯に来る虫を狙っていた	
95 チーム沼人	7/27	石狩当別	ニホンアマガエル	参考 声のみ、大合唱	
96 チーム沼人	7/28	石狩当別	ニホンアマガエル	参考 溺死(野外水槽内)、卵塊付き	
97 チーム沼人	7/28	石狩当別	ニホンアマガエル	参考 7匹、街灯電柱、周囲大合唱	
98 チーム8823(ハヤブサ)	7/22	滝川	ニホンアマガエル	正式 幼体	
99 チーム8823(ハヤブサ)	7/27	滝川	シマヘビ	正式 成体	
100 東海大札幌	7/28	石山	ニホンカナヘビ	正式 生体。東海大学	
101 東海大札幌	7/28	清田	ニホンカナヘビ	正式 生体。西岡水源池	
102 東海大札幌	7/28	清田	エゾアカガエル	正式 生体。西岡水源池	
103 東海大札幌	7/28	札幌東部	トノサマガエル	正式 生体。平岡公園	
104 東海大札幌	7/28	札幌東部	シマヘビ	正式 生体。平岡公園	
105 東海大札幌	7/28	札幌東部	ニホンカナヘビ	正式 生体。平岡公園	
106 東海大札幌	7/28	石狩広島	トノサマガエル	正式 生体。道都大学前	
107 東海大札幌	7/28	石狩広島	ニホンアマガエル	正式 生体。道都大学前	
108 東海大札幌	7/28	石狩広島	トノサマガエル	正式 生体。水田地域	
109 東海大札幌	7/28	石狩広島	ミシシッピアカミミガメ	正式 生体。農家の捕獲物	
110 チームボリプリテルス	7/27	札幌東部	ツチガエル	正式 生体	

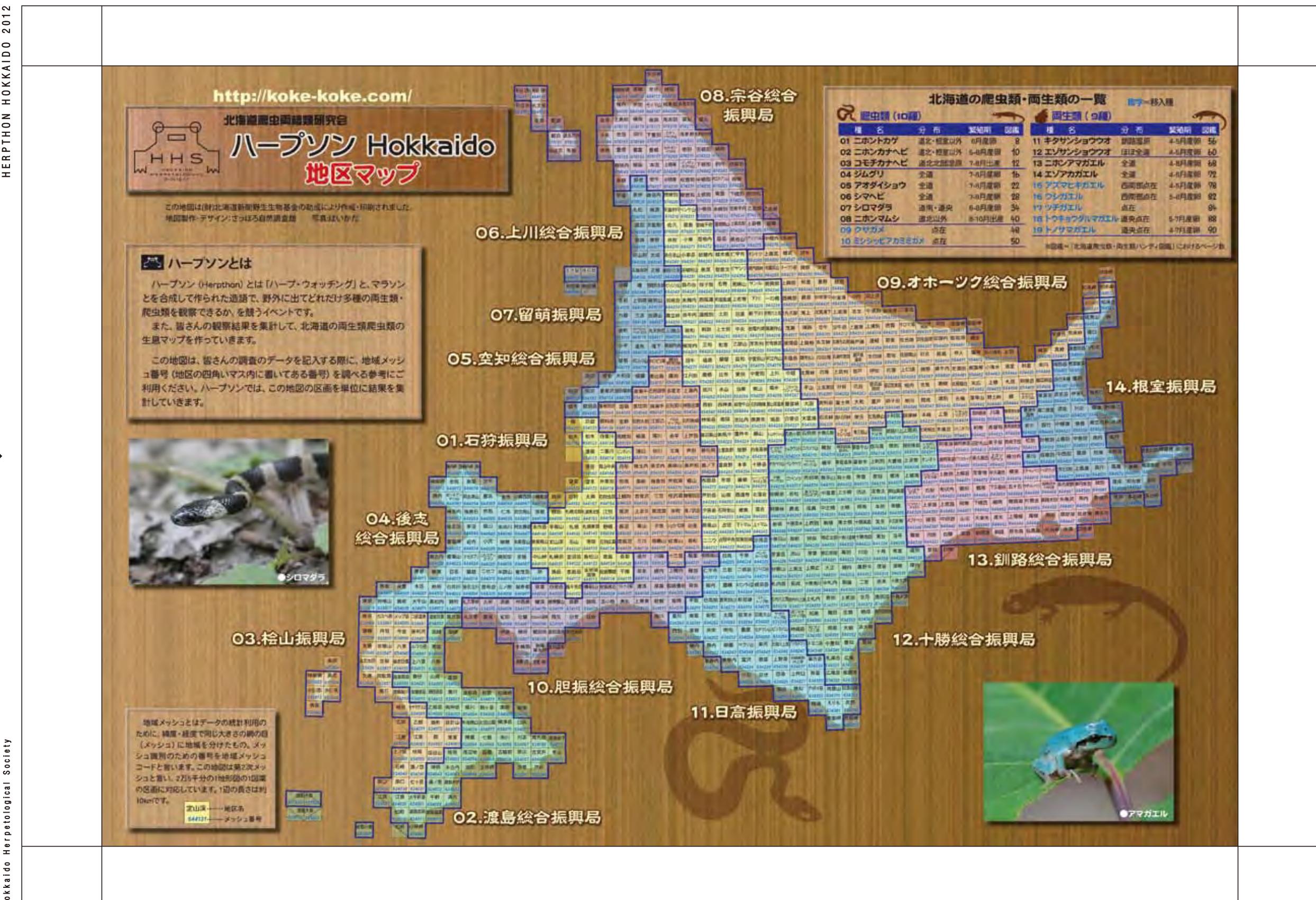
チーム名	調査日	地区名	確定種（参考記録は報告種名）	記録	備考
111 カエルヤ姉チーム	7/22	清田	トノサマガエル	正式	生体
112 カエルヤ姉チーム	7/23	石山	ツチガエル	正式	生体
113 jintarou	7/28	阿寒	エゾアカガエル	正式	幼体
114 jintarou	7/28	山花	ジムグリ	参考	生体。写真撮れず
115 jintarou	8/21	細岡	-	参考	携帯で撮影・期間外
116 jintarou	8/25	山花	-	参考	乾燥へび死体・期間外。同定不可
117 はなちゃん	7/25	札幌	ツチガエル	参考	1匹。鳴き声
118 とかちへいや生物部	7/22	帶広北部	ニホンカナヘビ	正式	生体。国見山
119 とかちへいや生物部	7/22	十勝川温泉	エゾアカガエル	正式	生体。十勝の丘
120 とかちへいや生物部	7/22	帶広南部	エゾアカガエル	参考	生体。写真なし
121 とかちへいや生物部	7/22	十勝川温泉	ニホンアマガエル	参考	声のみ
122 とかちへいや生物部	7/25	帶広南部	ニホンアマガエル	参考	声のみ
123 とかちへいや生物部	7/27	十勝川温泉	ジムグリ	正式	死体。64433236
124 とかちへいや生物部	7/27	十勝川温泉	ジムグリ	正式	死体。64433236
125 とかちへいや生物部	7/29	帶広南部	ミシシッピアカミミガメ	参考	生体。期間外・写真なし
126 わんぱく遊び隊！	7/28	栗山	エゾアカガエル	正式	成体
127 わんぱく遊び隊！	7/28	栗山	ニホンアマガエル	正式	幼体
128 わんぱく遊び隊！	7/28	栗山	シマヘビ	正式	成体
129 わんぱく遊び隊！	7/28	栗山	ニホンカナヘビ	正式	死骸、成体
130 わんぱく遊び隊！	7/28	栗山	ツチガエル	正式	成体
131 わんぱく遊び隊！	7/28	栗山	エゾサンショウウオ	正式	幼生
132 わんぱく遊び隊！	7/28	栗山	アオダイショウ	正式	成体
133 枝豆クラブ	7/23	札幌	トノサマガエル	正式	成体。同定依頼。事務局でトノサマガエルと判断
134 日本野鳥の会滝川市部	7/22	砂川	シマヘビ	正式	成体。報告はアオダイショウ。事務局でシマヘビと確認訂正
135 日本野鳥の会滝川市部	7/22	幾春別	アオダイショウ	正式	成体
136 日本野鳥の会滝川市部	7/24	滝川	ツチガエル	正式	成体
137 日本野鳥の会滝川市部	7/28	滝川	ニホンアマガエル	正式	幼体。同定依頼にて事務局で確認同定
138 日本野鳥の会滝川市部	7/28	滝川	ニホンアマガエル	正式	幼生。同定依頼にて事務局で確認同定
139 みく&なつ	7/23	札幌	アオダイショウ	正式	成体
140 みく&なつ	7/25	札幌	ニホンカナヘビ	正式	成体
141 環境調査 A チーム	7/26	岩尾内湖	エゾサンショウウオ	正式	幼体。昆虫調査のトラップに落ちていた。最初生きていたが、後に死亡
142 環境調査 A チーム	7/27	岩尾内湖	エゾアカガエル	正式	成体
143 チーム浅野	7/23	恵庭	ニホンアマガエル	参考	幼生、幼体、写真なし
144 チーム浅野	7/28	恵庭	シマヘビ	参考	黒化型、成体、写真なし
145 チーム浅野	7/28	恵庭	ニホンアマガエル	正式	幼体
146 チーム浅野	7/28	恵庭	トノサマガエル	正式	成体
147 ざりがに探偵団	7/24	名寄	ニホンアマガエル	参考	写真なし、鳴き声のみ
148 CHIKUDAI NRA	7/22	十勝川温泉	エゾアカガエル	正式	成体
149 CHIKUDAI NRA	7/24	帶広南部	エゾアカガエル	正式	幼体。まだしづかが生えていた
150 CHIKUDAI NRA	7/24	帶広南部	エゾアカガエル	正式	幼体（とても小さいが成体）
151 CHIKUDAI NRA	7/24	帶広南部	エゾアカガエル	正式	判別自信なし。事務局同定：エゾアカガエル
152 CHIKUDAI NRA	7/24	帶広南部	エゾアカガエル	正式	報告はニホンアマガエル幼生。判別自信なし。事務局同定：エゾアカガエル
153 CHIKUDAI NRA	7/26	帶広南部	エゾアカガエル	正式	成体
154 CHIKUDAI NRA	7/26	帶広南部	エゾアカガエル	正式	成体
155 CHIKUDAI NRA	7/28	芽室	ニホンアマガエル	正式	成体
156 CHIKUDAI NRA	7/28	芽室	シマヘビ	正式	蛇の抜け殻。可能なら同定お願いします。事務局同定：シマヘビ
157 CHIKUDAI NRA	7/28	芽室	エゾアカガエル	正式	成体
158 CHIKUDAI NRA	7/28	芽室	エゾアカガエル	正式	成体
159 CHIKUDAI NRA	7/28	芽室	エゾアカガエル	正式	成体
160 PEG	7/24	大楽毛	ニホンアマガエル	正式	成体
161 PEG	7/24	大楽毛	キタサンショウウオ	正式	成体
162 PEG	7/28	山花	エゾアカガエル	正式	成体
163 さっぽろ自然調査館	7/22	札幌東部	アオダイショウ	正式	成体
164 さっぽろ自然調査館	7/27	野幌	ツチガエル	正式	成体
165 さっぽろ自然調査館	7/27	野幌	エゾサンショウウオ	正式	幼生



## 参加者からの感想

感想やご意見を有難うございます。いい方向にできるように、検討していきたいと思います。個人情報の保護のため、一部表現を書き換えさせていただいているものもあります。

- 1 来年も参加予定です。両生類が確認しにくい時期なので期間の変更と、音声ファイルでのカエルの記録を認めて欲しい。期間中、土日が1回しか無いので天気が悪いときつい。
  - 2 もっとたくさん見つけられるかと思っていたが、イザ探すとなるとなかなか集まらないものですね。前年7月、エゾサンショウウオのおたまをたくさん見つけたポイントで、今回は発見できなかったのも残念でした。爬虫類・両生類にフォーカスしてのウォッチングは初めてだったので、非常に勉強になりました。是非また参加したいです。
  - 3 自分たちはなさけない結果で残念ですが、とても勉強になりました。生物は「目に見えないからいい」とは限なくて「いるけど見えない・探せないだけ」かもしれない、ということを再認識しました。
  - 4 前回エゾアカガエルとエゾサンショウウオの卵があった付近を探索するも草生い茂る。付近の方やビジターセンターの方に聞くも孵化して森を駆け回っているのではとの事。最近良天候で沼の水が一度干上がったとか…歩きまわりましたが、ヘビにも出会えず断念しました。センターで保護されているエゾサンショウウオに癒され帰宅しました。
  - 5 普段は爬虫類・両生類にあまり注意して歩いていませんが、けっこうあちこちで見かけるものですね。発見時の天候や気温が記入できると、データとしてより深みが出るかも知れませんね。
  - 6 見つけようと思ってもなかなか見つけられずに残念でした。見つけたら思わず捕まえようとしてしまい逃げられ、写真も撮りそこのガッカリ。捕まえようとする姿勢を直そうと思った。地図を調べるのが思っていたより難しかった。(報告者には)データを取るのをメインに考えるなら、1ヶ月間など期間を長くしたほうが良いと思った。
  - 7 仕事が詰まっている中での参加は難しいと感じました。このような規模の大きな調査をまとめるのは大変と思いますが、新たな知見も得られること思います。期待しています!いずれの記録も写真撮影していないので参考記録として下さい。
  - 8 体長1.5cmほどの個体が卵塊をつけた状態で溺死していた。アマガエルはその程度のサイズでも成熟個体?街灯の支柱に登っているのは大きめの個体が多くなった。
  - 9 二件とも自宅の庭で撮影しました。野外では、いざとなると、なかなか発見できなかった。
  - 10 最終日の参加でしたが、あまりの暑さで成果が挙げられずに、すみません。
  - 11 一人で池をずっと長時間見つめ続け、あやしい人と思われたでしょうが自分ではとても満足でした。アズマヒキガエルに、いつの日か出会いたいです。
  - 12 時間が取れず残念
  - 13 街中の公園にもカエルがいると分かり嬉しかったですが、移入種のよう複雑です。他の公園にもカエルの鳴き声が聞こえ始める暗くなる頃に探そうと思いましたが、若者がたむろしているといううわさがあり、怖いのでやめました。なので、各々のチームを集めて30人くらいにした特別連合チームで探しに行きたかった。
  - 14 この時期の実施はとても参加がきしいです。仕事が忙なり、ほとんど何も出来ませんでした。しかし、新しい分布情報が得られ、特に十勝が丘のトカゲは確認まであと一步です。
  - 15 46名で参加!最多参加人数狙い!?ものすごく暑い日でしたが、汗だくになって、みんなで生き物探しして、とても楽しかったです。予想外のヘビ2種類は、子供達も大はしゃぎ!でした。シマヘビは2~3匹、大きな水たまりを泳いでいるのを見た。子供が捕まえました。捕まつた生き物はみんなに触られ、ちょっとかわいそうでした。
  - 16 以前にエゾサンショウウオの幼生を見つけた場所で、随分探しましたがすでに上陸したと見え、1匹も捕まえられなかったのが残念です。
  - 17 親子で楽しみにしていたハープソンでしたが…体調不良で全く活動できませんでした。これを機に、三角山や大倉山、円山登山&自然観察を楽しもうと思っていたのですが…残念です。ハープソン期間中に近所で見かけたものだけご報告させていただきます。
  - 18 爬虫類がかなり難しいと感じました。どこに行けば会えるのか…。以前に見たことがある場所を覚えておいて探しに行くのがよいのでしょうか。
- 事務局より
- ご意見に関しては、「おわりに」で検討します。8さん、卵を持っているということはその個体は成熟しているということで良いと思います。でも個体差があるので皆がその大きさで成熟しているとは限らないかも知れません。13さん、森には森の不安があり、街には街の不安がありますね。今回は保険もなかったので、良い判断をされていたと思います。18さん、最初はそんな感じで見て、周りの環境を覚えて、次回は似た環境を探してみましょう。結果が出しきれないことについて謝ってくださる方々、なんも気にならないでくださいね。ちょっととづつの情報でも、みんな集めればどんどん情報は大きくなりますから。みんなでハープソンを大きくしていけたらいいなと思っています。



おわりに

ハープソン Hokkaido 2012 を行なってみて、狙い通りの形で進んだか？というと、万事が狙い通りではありませんでした。仕組みや、配布物なども良い物ができ、参加者と報告数も、20 チーム・50 人、100 データという目標を超えることができました。しかし、事務局側の手数が足りず、いろいろな点で対応が不十分なところもあったかもしれませんと反省をしています。

本報告書の作成においては、北海道生息種の全種のカバーを行いました。もちろん、今年のハープソンで記録されていない種も入っているのですが、今後のハープソンに参加して下さる方が、見つけることができるようなヒントを埋め込んでいったつもりです。そして初年度ですので、過去のデータとの比較などが十分できないなどもありましたが、種によっては傾向の検討ができるくらいのデータが集まつたものもありました。

今回のハープソンでは、夏休みの子供達も参加できる 7 月 22 ~ 28 日という期間を選択しましたが、観察的に難しくなる種が多々出てきました。エゾアカガエルやエゾサンショウウオの幼生は平野部では上陸してしまうし、爬虫類なども最も暑いこの時期、正午ころの時間帯にはあまり見れなくなるなどもあったと思います。また、1 週間は短く、たくさん観察に行けなかった方々もいらしたことから、次回のハープソンは 2013 年 6 月初旬に 2 週間で行う予定にしています。夏休み期間ではありませんが、土日を考えると 4 日の休みがあるので、楽しめる期間はあると思います。ただ、事務局側の負担が増えるので、当事業のお手伝いをしてくださる方を募集したいと思います。希望される方は、是非当会にご連絡くださいと幸いです。

ここからは、まだ検討段階なのですが、今年は自由参加制で敷居を下げるようにしたのですが、事務局が参加人数を把握できないなどのこともありますので、次回はなるべく事前登録し、可能であれば簡易な保険などもつけて、事故対応なども充実させておきたいと思います。

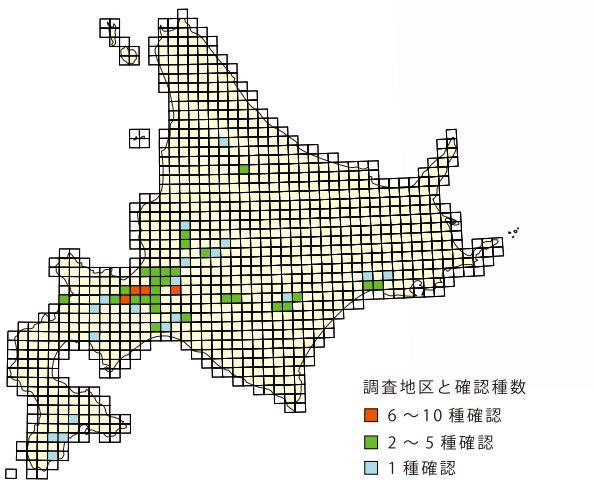
証拠として、写真撮影必須とした点は、来年以降も継続したいと思います。今回のハープソンでも、写真を元に同定依頼があったり、報告種名の訂正を行う場面がありました。客観的に第三者者が同定に関わることで、間違ったデータが修正され、より精度の高い分布地図が作られていくことになります。また、証拠となるものとして、特にカエル類ですが、鳴き声の音声ファイルなども、来年は OK としようと考えています。アマガエルなど特徴的なものはそれだけで存在を示せます。しかし、トノサマガエルとトウキョウダルマガエルのように、鳴き声の判別が難しいものもあり、懸念も含みます。

来年は、まだ着手予定が立ちませんので、どのような規模でハープソンを行えるか不明ですが、できることをしっかりと行なって、今年以上の参加者や結果を残せるように、事務局側も頑張りたいと思います。是非また、皆さまのハープソンへの参加を期待していきたいと思います。

今後とも、ハープソン Hokkaido 及び、北海道爬虫両棲類研究会をよろしくお願ひいたします。ハープソン Hokkaido 2012 を行うにあたり、(財) 北海道新聞社野生生物基金の助成を得、本報告書を作成できました。また多くの方々の声援をいただき、無事に今年のハープソンを終えることができました。

参加して下さった皆さま、ご声援くださった皆さま、データの整理やマップデザインをして下さった「さっぽろ自然調査館」さま、原稿チェックなどを下さった副会長の照井滋晴さま、本冊子の楽しいデザインをして下さった岡田善敬さま、写真賞の審査をして下さった中島宏章さまには多大な感謝をもって御礼させていただきます。

徳田龍弘（北海道爬虫両棲類研究会・会長）



## HERPTTHON HOKKAIDO ハープソン Hokkaido 2012 結果報告書

実行委員会：北海道爬虫両棲類研究会 徳田龍弘、照井滋晴

執筆・編集：徳田龍弘、照井滋晴

アートディレクション：岡田善敬

地図データ：さっぽろ自然調査館

写真協力：徳田龍弘、参加者の皆さん

発行：北海道爬虫両棲類研究会 <http://koke-koke.com/>

〒061-2303 北海道札幌市南区定山渓温泉西 2 丁目 45-1-306

北海道爬虫両棲類研究会事務局（徳田宛）

印刷：札幌大同印刷株式会社

2012 年 12 月 8 日 発行